

# 2

## General Disclosures

全般的情報

## 2 全般的情報

> 基本的な考え方	04
サステナビリティマネジメント体制	05
ステークホルダーエンゲージメント	07
Hondaの取り組みとSDGs	10
外部からの評価	13

# 基本的な考え方

「Honda フィロソフィー」は、「人間尊重」「三つの喜び」から成る“基本理念”と、“社是”“運営方針”で構成されており、Honda グループすべての企業と、そこで働くすべての従業員の価値観として共有され、企業経営・事業活動と、従業員の行動や判断の基準となっています。

Hondaは、環境破壊・資源エネルギーの枯渇・食料問題など、地球規模での課題に世界が直面していることを認識し、現在の事業をさらに発展・進化させていくと同時に、こうした地球規模的課題解決に挑戦していくという考えのもと、企業経営・事業活動を行っています。

Hondaのグローバルブランドスローガンである「The Power of Dreams」は、私たちが突き進む原動力がつねに「Hondaで働く一人ひとりの夢」であることを表現しています。「夢」を原動力とした私たちの創造力が、お客様にお届けする提供価値を生み出します。それが世界中の人々を動かし、心を震わせ、それぞれが夢に向かって一歩踏み出す力となっています。そして夢に向かって動き出した人々の力が周りに波及し、新たなつながりが生まれ、社会全体に夢が拡がっていきます。

Hondaはいつの時代にも、世界中で紡がれる無限の「夢」の力を信じ、その実現を後押しする「パワー」でありたいと考えています。このような未来への想いを込めて、「How we move you.」というステートメントを「The Power of Dreams」のあとに続く副文として追加しています。

具体的な企業経営・事業活動においては、商品・サービスを通した価値の提供によってステークホルダーの期待・要請に応えるとともに、環境や社会に対する影響への配慮など、企業の社会的責任を果たすことや、社会課題の解決を通して社会の持続可能性に貢献することが重要です。

Hondaは、これらを実践するために経済的価値を犠牲にするというトレードオフの考え方ではなく、「社会的価値を追求することで経済的価値を拡大し、企業としての新たな成長軌道を描いていく」というトレードオンの思想のもと、取り組みを強化しています。

ひとを動かし、心を動かし、世界中に夢を拓げていくHondaの企業経営・事業活動はサステナビリティに資するものであり、将来にわたり、人々や社会から「存在を期待される企業」であり続けることをめざします。

**HONDA**  
The Power of Dreams

**How we move you.**  
CREATE ▶ TRANSCEND, AUGMENT

Honda フィロソフィー  
<https://global.honda/jp/guide/philosophy/>

2 全般的情報

基本的な考え方	04
> サステナビリティマネジメント体制	05
ステークホルダー エンゲージメント	07
Hondaの取り組みと SDGs	10
外部からの評価	13

## サステナビリティマネジメント体制

Hondaは、「基本理念」、「社是」および「運営方針」の3つから構成されている「Honda フィロソフィー」に根ざした企業活動を推進しています。

Hondaでは、長期経営方針や中期経営計画は経営会議（議長：取締役代表執行役社長 最高経営責任者）や取締役会で承認・決議しています。気候変動問題への対応を含む最終的な監督機関は取締役会であり、経営会議では取締役会の決議事項などについて事前審議を行うとともに、取締役会から委譲された権限の範囲内で、経営の重要事項について審議しています。

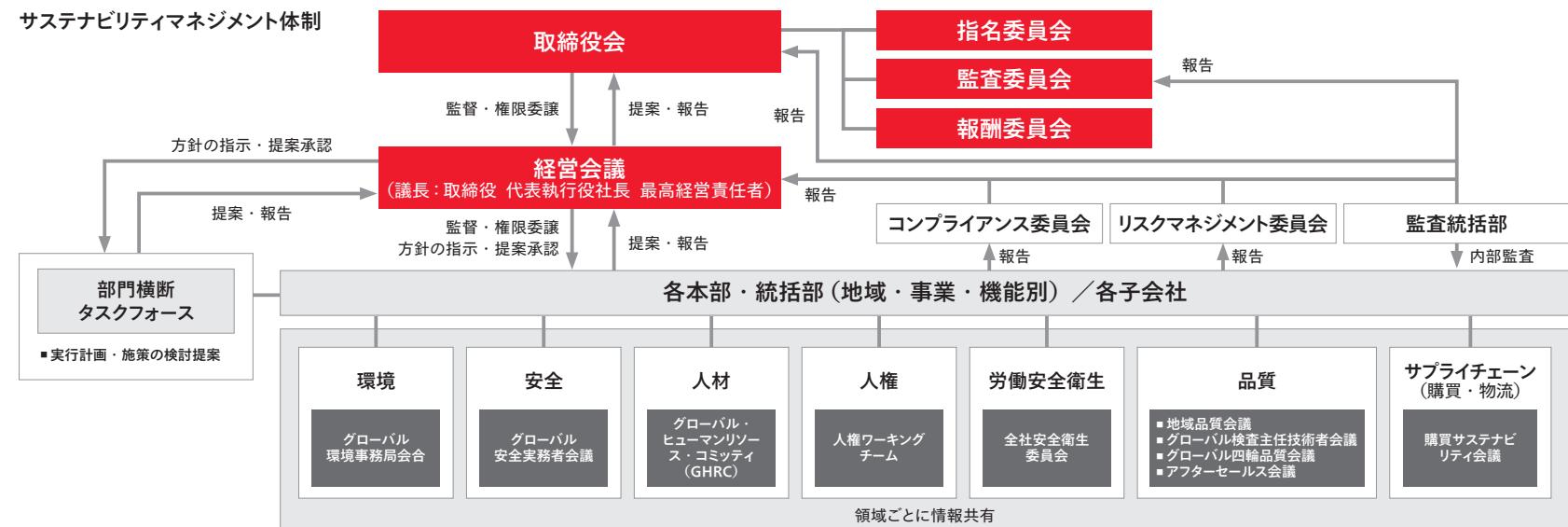
また、事業活動にともなうさまざまなリスクへ対応し、社会とHondaの永続的な発展に向けた事業運営の監督を行う必要性から、気候変動問題への対応を含む「ESG・サステナビリティ」を必要スキルの一つとして定め、取締役を選任しています。

各本部・統括部や各子会社では、全社の長期経営方針や中期経営計画に基づき、実行計画・施策を企画・推進し、重要事項については経営会議で適宜、報告・承認されています。「環境」「安全」「人材」「人権」「労

働安全衛生」「品質」「サプライチェーン（購買・物流）」などの各領域では、会議体を設け、情報共有や議論などを通じてグローバルマネジメントを推進しています。また、気候変動問題への対応など、部門をまたぐ重要課題については経営メンバーが直接指揮を執る「部門横断タスクフォース」を組成し、実行計画・施策の検討提案を適宜行い、重要事項については経営会議で報告・承認されています。また、各領域に関するコンプライアンスやリスク管理については、当社の内部統制システム整備の基本方針に基づいて運用されています。（→ p.185）

取締役会が監督責任を有するKGIや経営会議が執行責任を有するKPIは、取締役会や経営会議が進捗を定期的にモニタリングすることで、経営ガバナンスの強化を図っています。財務指標および非財務指標に連動した役員報酬制度については有価証券報告書「4 コーポレート・ガバナンスの状況等(4) 役員の報酬等」をご参照ください。

有価証券報告書 <https://global.honda/jp/investors/library/report.html>



**2 全般的情報**

基本的な考え方	04
<b>&gt; サステナビリティマネジメント体制</b>	<b>05</b>
ステークホルダー エンゲージメント	07
Hondaの取り組みと SDGs	10
外部からの評価	13

## サステナビリティマネジメント体制

### サステナビリティ関連会議体の概要

領域	会議体	内容
環境	グローバル環境事務局会合	国際動向と経営議論を踏まえた当社グループの最新の取り組み方針の共有や、中長期目標達成に向けたグローバル課題について議論する場。
安全	グローバル安全実務者会議	新安全目標に向けた推進内容を共有し、交通事故死者ゼロの実現に向けた取り組みの強化について、地域間の安全課題を議論する場。
人材	グローバル・ヒューマンリソース・コミッティ(GHRC)	世界各地域の人事責任者が集まり、各地域特有の人事課題に関する議論や、グローバルでの人事戦略のあり方・全社展開の進め方について整合を図る場。
人権	人権ワーキングチーム	当社グループ国内外事業所やサプライヤーなどに向けたアセスメントを含む人権デュー・ディリジェンスの対応や啓発活動を推進し、取り組みの強化や従業員の行動定着化を図る場。
労働安全衛生	全社安全衛生委員会	「安全なくして生産なし」の安全衛生基本理念のもと、安全・衛生に関する全社方針の策定および実行を指示し、安全衛生領域のガバナンス強化を図る場。
品質関連 品質	二輪・ パワープロダクツ 地域品質会議	全社方針書で定めた品質目標に基づき課題形成を行い、これに地域別の課題を加え、対応施策を定めた内容について、その管理方法と情報共有を定期的に図る場。
	四輪 グローバル検査主任 技術者会議 グローバル四輪品質会議	
アフターセールス 領域	四輪 アフターセールス会議 パワープロダクツ	本社と各地域の責任者が方針や施策をグローバルで共有し、グローバルで高位平準化することを目的とする場。
サプライチェーン (購買・物流)	購買サステナビリティ会議	グローバルサプライチェーン全体で低炭素への取り組みや人権やコンプライアンスの取り組みを強化するために、グローバルで統一した施策の展開方針や達成手段について、各地域の実務担当者が議論・整合を図る場。

**2 全般的情報**

基本的な考え方	04
サステナビリティマネジメント体制	05
<b>&gt; ステークホルダー エンゲージメント</b>	<b>07</b>
Hondaの取り組みとSDGs	10
外部からの評価	13

## ステークホルダーエンゲージメント

### 基本的な考え方

Hondaが社会から「存在を期待される企業」となるためには、コミュニケーション・サイクルを実践していくことが必要です。それは、①Hondaがどのような価値を社会に提供しようとしているのかを適宜・的確に伝え、②多様なステークホルダーのHondaに対する要請や期待を把握・理解し、③具体的な施策に落とし込み、④その評価を受ける、という仕組みです。

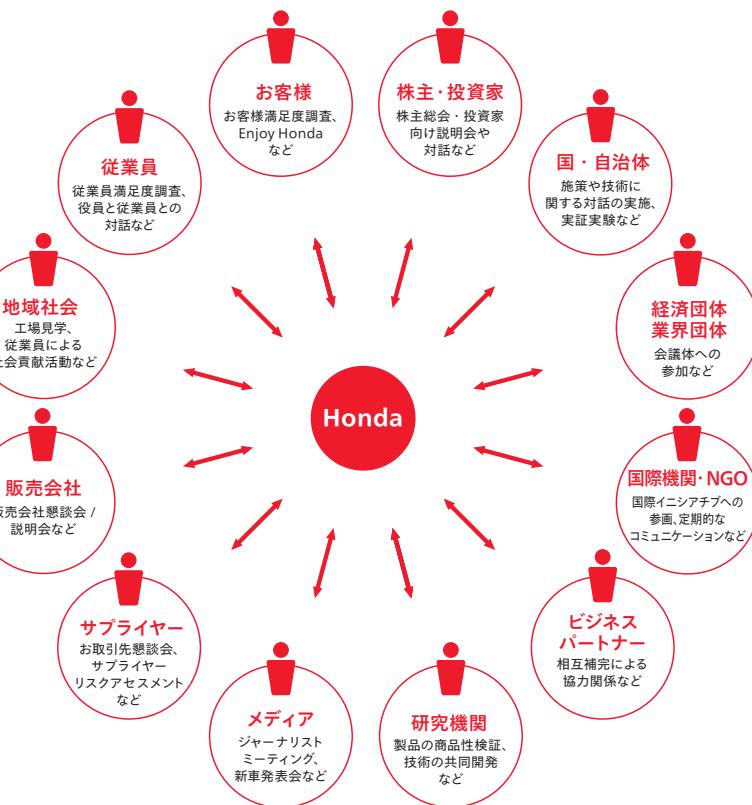
とりわけ近年は、事業の規模拡大やグローバル化に加え、ITの急速な普及によって、企業活動が社会に及ぼす、また社会が企業に及ぼす影響の大きさや範囲が広がっており、そのスピードも加速しています。そんななか、「ステークホルダーとの対話」は、Hondaの取り組みに対するより正しい理解につながるとともに、社会環境の変化やリスクを把握できる有益な手段でもあると考えています。

こうした認識のもと、Hondaはグローバルで、さまざまな機会を通じて対話を実施しています。この対話は、Hondaのステークホルダーのなかでも、右図の主要なステークホルダー（Hondaの事業活動により影響を受ける、もしくはその行動が事業活動に影響を与えるもの）と、社内各部門との間で行っています。

例えば、株主・投資家とのエンゲージメントでは、シェアホルダー（株主）リレーションズと、インベスター（投資家）リレーションズを通じて、Hondaをより正しく理解していただけるよう対話を行っています。

また、代表的なESG評価機関やNGOとの対話から得られた意見をHondaが取り組むべき企業活動の検討に役立てています。

### ステークホルダーエンゲージメント



**2 全般的情報**

基本的な考え方	04
サステナビリティマネジメント体制	05
<b>&gt; ステークホルダー エンゲージメント</b>	<b>07</b>
Hondaの取り組みと SDGs	10
外部からの評価	13

## ステークホルダーエンゲージメント

### 2025年3月期における取り組み例

ステークホルダー	主な対話方法	概要	頻度	窓口	参照
お客様	お客様満足度調査	世界中の顧客の満足のため、全世界の各販売店でサービスを受けたお客様に対し、顧客満足度についての調査を実施し、質の高いサービスオペレーション実施に向けた改善活動を行っています。	毎年	顧客担当部門	→ p.177
株主・投資家	決算説明会 個別対話やカンファレンス参加、個人投資家向け説明会などを通じた対話	決算概況や取り組みなどについて、国内・海外の投資家、アナリスト向けに同時通訳を活用したWeb会議を開催しています。また、時差などで会議に参加できない方に向け、Webサイトに日本語・英語で議事録を掲載しています。  経営状況、生産、研究開発、事業戦略の説明や、意見交換を実施しています。得られたご意見は貴重なフィードバックとして経営に活かしながら、さらなる企業価値の向上へつなげていきます。	年4回  通年	財務部門	<a href="https://global.honda/jp/investors/">https://global.honda/jp/investors/</a>
サプライヤー	お取引先懇談会 サプライヤーへのESG調査の実施	事業の方向性や取り組み内容をサプライヤーと共有する懇談会を、定期的に開催しています。全社方針や購買方針の発信とQCDDE※などの各領域において、とくに優れた実績を残されたサプライヤーに対し、感謝賞を贈呈しています。懇談会終了後には、出席者に対するアンケートを実施し、満足度や次回イベントに活かすための改善点の把握を行い、さらなる充実に向けた活動を行っています。  「Hondaサプライヤーサステナビリティガイドライン」(→ p.127)に基づき、コンプライアンス違反や人権に関する負の影響・リスクの未然防止、環境負荷低減実現のため、主要サプライヤーへのESG調査を実施し、取り組み状況を確認しています。そのなかで問題発生の可能性が高い、または発生した場合、サプライヤーとコミュニケーションを図りながら改善に向けた活動を実施しています。	毎年  毎年	購買部門	→ p.140  → p.130
経済団体・業界団体	業界団体活動への参画	業界団体活動を通じて社会の期待・要請を把握し、持続可能な事業環境を整え社会に貢献すべく、各種会議体に参画しています。	通年	渉外部門、ほか	
国際機関・NGO	国際イニシアチブへの参画	持続可能な社会の実現に向けた、期待・要請の把握と貢献をめざし、各種会議体に参画しています。	通年	サステナビリティ企画部門、ほか	
地域社会	安全運転普及活動	Hondaは、グローバル安全スローガン「Safety for Everyone」を掲げ、事故を未然に防ぐために安全運転支援技術とともに「人から人への手渡しの安全」と「参加体験型の実践教育」を基本として、運転者だけではなく、子どもから高齢者まで、交通社会に参加するすべての人を対象とした交通安全啓発活動に積極的に取り組み、現在では、世界43の国と地域で活動を行っています。	通年	安全運転普及担当部門	→ p.150
	お身体の不自由な方々の運転復帰	移動手段の選択肢を広げて、社会参画への格差を少なくしたいと考え、福祉車両（運転補助装置）を提供するとともに、運転復帰を望む方々の支援のため、地域での支援環境確立に向け、作業療法士をはじめとする方々のサポートをしています。	通年		→ p.160
	ビーチクリーン活動 里地里山保全活動	独自開発した機材を使用し、全国各地でHondaグループが地域の参加者とともに行う砂浜の清掃活動。2006年に活動を開始して以来、実施した活動回数は454回、回収したごみ総量は約567tにのぼります。  東京都八王子市と活動協定を締結し、従業員とその家族が八王子市の「上川の里特別緑地保全地区」での里地里山保全活動を実施しています。	通年	社会貢献活動推進部門	<a href="https://global.honda/jp/philanthropy/">https://global.honda/jp/philanthropy/</a>
国・自治体	被災地支援	令和6年7月25日からの大雨、令和6年台風第10号、令和6年9月20日からの大雨による被害への支援として、高圧洗浄機12台を被災地各県に寄贈、義援金500万円を日本赤十字社に寄付しました。		社会貢献活動推進部門、ほか	<a href="https://global.honda/jp/philanthropy/saigai/">https://global.honda/jp/philanthropy/saigai/</a>
従業員	従業員エンゲージメントや従業員活性度測定	より働きやすく働きがいのある職場づくりのため、従業員の活性度の測定と結果に応じた取り組みを行っています。	毎年	人事部門	→ p.84

※ QCDDE : Quality(品質)、Cost(コスト)、Delivery(調達)、Development(開発)、Environment(環境)の略。

**2 全般的情報**

基本的な考え方	04
サステナビリティマネジメント体制	05
<b>&gt; ステークホルダー エンゲージメント</b>	<b>07</b>
Hondaの取り組みと SDGs	10
外部からの評価	13

## ステークホルダーエンゲージメント

### 外部団体との協働

Hondaは、グローバルなモビリティカンパニーとしての責任を果たしていくために、政府をはじめ経済団体や業界団体との対話を推進するとともに、外部団体との協働を行っています。日本においては、一般社団法人日本自動車工業会の副会長職や委員会委員長職、一般社団法人日本経済団体連合会の委員会委員長職、東京商工会議所の副会頭職や委員会委員長職を引き受けています。

また、二輪車の国際団体であるIMMA<sup>※1</sup>では、委員会や作業部会の代表を務めています。さらにWBCSD<sup>※2</sup>への加盟を通じて、サステナビリティに関するイニシアチブとも協力しています。

なお、Hondaの各地域における事業執行にあたっては、各地域が自立性を高め、迅速な意思決定を行うため、一定の範囲内で権限を委譲しています。政治献金<sup>※3</sup>を行う場合は、各国の法令に基づき、社内の必要な手続きを経て行っています。

### 適切な広告・宣伝活動

Hondaは、お客様や社会からの信頼と期待に応え続けるため、商品およびその特性について誤解を招くような表現・説明を避け、誇大に宣伝しないよう、誠実に広告・宣伝や販売促進活動を行います。

自社の商品やサービスが他社に比べて優れていることを表示・説明する場合は、関係法令に基づき、合理的で客観的な裏付けのもと、根拠なく誇大に宣伝することを行いません。

とくに、配慮が求められるような子どもや高齢者などを含むお客様に対して、過度に購入欲求を煽ったり、不適切な消費行動を助長したりするような広告およびマーケティング活動を行いません。

正しく商品の広告・宣伝や販売促進活動を行うことで、すべてのお客様に誤解を与えることのないように取り組んでいます。

※ 1 IMMA : International  
Motorcycle Manufacturers  
Association (国際二輪車工業会)  
の略。

※ 2 WBCSD : World Business  
Council for Sustainable  
Development (持続可能な開発  
のための世界経済人会議) の略。

※ 3 政治献金額 : 2022年3月期 : 25  
百万円、2023年3月期 : 25百万  
円、2024年3月期 : 25百万円。

## 2 全般的情報

基本的な考え方	04
サステナビリティマネジメント体制	05
ステークホルダーエンゲージメント	07
<b>&gt; Hondaの取り組みとSDGs</b>	<b>10</b>
外部からの評価	13

# Hondaの取り組みとSDGs

## SDGsへの貢献

Hondaはステークホルダーの皆様と喜びを共有するために、時代のニーズを先取りした世の中に役立つ独自の技術で、モビリティ社会の発展に貢献することをめざしています。

この考え方は「持続可能な開発目標(SDGs)」の目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」、目標12「つくる責任 つかう責任」や目標17「パートナーシッ

プで目標を達成しよう」の達成に通じるものであり、Hondaの企業活動全般に関わるものとなっています。

Hondaは経済的な価値を追求しながら、社会への価値を創出していくことが、持続可能な経営につながり、ひいては社会の持続可能性にも貢献できるものと考え、企業活動を通じてSDGsに貢献していきます。

## 取り組みとSDGs

		Hondaの取り組み	達成に貢献するSDGs目標
環境	気候変動・エネルギー問題への対応	カーボンニュートラル・クリーンエネルギーの取り組み(→p.23) カーボンニュートラル実現に向けたサプライヤーとの取り組み(→p.132) 物流の基本的な考え方(→p.135)	カーボンフリー社会の実現をリードすることをめざし、原材料の調達から製品の使われ方まで配慮した企業活動を行っています。クルマの電動化や、モバイルバッテリー・水素エネルギーの活用をはじめとする気候変動を抑える施策は、食料生産安定化やエネルギー供給などにも貢献し、住みやすい街づくりにつながると考えています。
	電動化の推進	製品使用のCO <sub>2</sub> 排出削減(スコープ3カテゴリー11)の取り組み(→p.24)	9 持続可能な産業と innovationをつくろう
	クリーンな大気の保全	大気汚染(→p.40) 水質汚染(→p.41)	3 すべての人々 が安全で 健康な 環境を 確保する ために 努力する こと
	資源の効率利用と廃棄物	資源利用および循環経済(→p.50)	11 住み慣れたまち をつくり 13 持続可能な 都市と 人間の 共生を 実現する こと
	水資源の保全	水(→p.43)	12 つくる責任 つかう責任
	生物多様性の保全	生物多様性および生態系(→p.45)	14 清潔な水と トイレを みんな に
	化学物質の適切な管理と汚染防止	有害物質(→p.42)	15 積極的な 気候政策 をつく ること
			17 パートナーシップ で目標を 実現する こと

## 2 全般的情報

基本的な考え方	04
サステナビリティマネジメント体制	05
ステークホルダーエンゲージメント	07
> Hondaの取り組みとSDGs	10
外部からの評価	13

## Hondaの取り組みとSDGs

## 取り組みとSDGs

Hondaの取り組み			達成に貢献するSDGs目標
安全	交通事故死者数の大幅削減	すべての人が安心し自由に移動できる社会(→p.150)	3 すべての人に 健康と福祉を 11 住み残りられる まちづくり 9 持続可能な都市 と地域社会
人材	優秀な人材の育成と確保 ダイバーシティ&インクルージョンの拡大	従業員の内発的動機の喚起と多様な個の融合(→p.84)	4 開かれた世界を みんなに 5 ジュンガード等を 実現しよう 8 経済がいも 経済成長を 10 いややの世界 なくなく 12 つくる責任 つかう責任
人権	人権の尊重	人権(→p.70) Honda人権方針(→p.71)	16 幸福と立派を すべての人々に 8 経済がいも 経済成長を
社会	労働安全	労働安全衛生の確保	3 すべての人に 健康と福祉を 12 つくる責任 つかう責任 17 パーナシブアント 世界を連続しよう
顧客	製品品質の向上 モビリティデバイドの解消	お客様の安心と満足を目指に(→p.170) 基本的な考え方(→p.04)	11 住み残りれる まちづくり 17 パーナシブアント 世界を連続しよう

\* OJT: On the Job Training (オン・ザ・ジョブ・トレーニング) の略。

## 2 全般的情報

基本的な考え方	04
サステナビリティマネジメント体制	05
ステークホルダーエンゲージメント	07
> Hondaの取り組みとSDGs	10
外部からの評価	13

## Hondaの取り組みとSDGs

## 取り組みとSDGs

		Hondaの取り組み		達成に貢献するSDGs目標
ガバナンスと経済	サプライチェーン全体へのサステナビリティ活動の展開	サプライチェーンのサステナビリティ強化に向けて(→p.126) カーボンニュートラル実現に向けたサプライヤーとの取り組み(→p.132)	世界中すべてのサプライヤーとともに、環境、安全、人権、コンプライアンス、社会的責任などに配慮し、サプライチェーン全体でサステナブルな社会の実現に取り組んでいます。「Hondaグリーン購買ガイドライン」「Hondaサプライヤーサステナビリティガイドライン」を発行して、それらに基づいた確認をしています。影響度の高いサプライヤーにはESG調査を実施しており、今後は、海外の購買拠点とも連携した拡大展開を図っていきます。	  
	経営資源の有効活用	基本的な考え方(→p.04)	多くの社会的課題が取りざたされているなか、経営上の優先課題を特定するには、バリューチェーンにおける機会や責任を理解することが欠かせません。社会の期待とお客様のニーズに応じて、既存事業の価値をどう転換・進化させていくのか、フォアキャスト・バックキャスト視点で考察し、新たな価値の創出をめざしています。	 
	コーポレートガバナンスの強化	コーポレートガバナンス(→p.185)	持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図ることで「存在を期待される企業」をめざしています。経営の最重要課題の一つとして、コーポレートガバナンスの充実に取り組んでいくとともに、社会からの信頼と共感をよりいっそう高めるために、企業情報の適切な開示により、今後も透明性の確保に努めています。	 
	開発途上国の経済発展への貢献	基本的な考え方(→p.04)	すべての人がより効率の良い移動手段を獲得したことによるビジネスや学習の機会増大を通して、人生を豊かにすることをめざしています。海外展開にあたっては、輸出から現地生産・現地開発へとビジネスモデルを進化させ、新興国での生産・開発機能の強化を図るなど、雇用とOJTによる教育で地域に貢献していきます。	  

Hondaの取り組みとSDGs <https://global.honda/jp/sustainability/report/SDGs.html>

**2 全般的情報**

基本的な考え方	04
サステナビリティマネジメント体制	05
ステークホルダーエンゲージメント	07
Hondaの取り組みとSDGs	10
> 外部からの評価	13

## 外部からの評価

### CDPの環境情報開示において最高評価の「気候変動Aリスト」企業に2年連続で選定

2025年2月、Hondaは、環境情報開示における国際的な非営利団体であるCDPにより、気候変動分野への取り組みと、情報開示の透明性が認められ、最高評価となる2024年の「気候変動Aリスト」企業に選定されました。これは、2年連続の選定となります。CDPは、企業や自治体の環境情報開示の世界的なシステムを持つ、国際的な非営利団体です。CDPが定める「気候変動」「水セキュリティ」「フォレスト」の3分野に関する質問書に従い各企業・自治体が環境情報の開示を行います。CDPは、企業が開示した情報に対してAからD-のスコアで評価し、とくに優れた取り組みを行っている企業を「Aリスト」に認定しています。同時に公表された水セキュリティは「A-」評価、フォレストは「C」評価でした。

